

iRMC

リモートマネージメントコントローラ

目次

はじめに	3
本書の表記	3
Windows の操作	4
商標および著作権について	4
1 リモートマネージメントコントローラ	5
1.1 IP アドレスの設定	5
1.2 iRMC にログインする	6
1.3 言語の変更	8
2 iRMC ユーザーアカウント	9
2.1 新しいユーザーアカウントの作成	10
2.2 ユーザーアカウント名／パスワードの設定	12
2.3 ユーザーアカウントの権限設定	13
2.4 ユーザーアカウントの無効化	15
2.5 ユーザーアカウントの削除	17
3 電源管理	18
3.1 電源制御の設定	18
3.2 電源投入時刻の設定	19
4 ID ランプの遠隔操作	20
4.1 ID ランプの点灯／消灯	20
5 ネットワーク設定	21
5.1 イーサネット設定 (IP アドレスの設定)	21
5.2 セッションタイムアウト時間の設定	23
5.3 DNS 設定	24
5.4 ネットワーク設定の初期値	25
6 センサー確認	28
6.1 ファンの状態を確認する	28
6.2 温度センサーの状態を確認する	29
7 システムイベントログ (SEL)	31
7.1 システムイベントログ (SEL) を確認する	31
7.2 システムイベントログ (SEL) を削除する	32
7.3 エラーメッセージ	33
8 Eメール通知	34
8.1 Eメール通知の設定	34
8.2 テストメールの送信	39
8.3 テストメールと Eメール通知の確認	41
8.4 主な送信 Eメール内容一覧	48
8.5 Eメール設定の初期値	49

はじめに

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書では、iRMC（リモートマネージメントコントローラ）の設定について説明しています。
お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いください。

本書の表記

本書の内容は2019年7月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になりお問い合わせください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【**Ctrl**】キー、【**Enter**】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなぎで表記しています。

例：【**Ctrl**】 + 【**F3**】キー、【**Shift**】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイスマネージャー」をクリックする操作

↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
iRMC（リモートマネージメントコントローラ）を搭載したESPRIMO	コンピューター	
iRMC（リモートマネージメントコントローラ）を搭載したCELSIUS		
Windows 10 Enterprise	Windows 10	Windows
Windows 10 Pro for Workstations		
Windows 10 Pro		

Windowsの操作

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」 ウィンドウを表示させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」 ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

商標および著作権について

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2019

1 リモートマネージメントコントローラ

本コンピューターには、リモートマネージメントコントローラ（以降、iRMC）が搭載されています。

iRMCには、コンピューター本体のOSや電源の状態に関係なく、温度やファンの監視や、故障時には保守ランプを点灯させて通知する機能が搭載されています。

また、iRMCにはネットワークからログインすることができ、次の項目を確認できます。

- ・コンピューターのファンの状態確認
- ・コンピューターのセンサーの温度確認
- ・コンピューターのシステムイベントログ（エラーログ）

☞ 重要

- ▶ 本書で説明している設定項目以外は、設定を変更しないでください。
設定を変更した場合、本コンピューターの状態が確認できることや、正常に動作しないことがあります。

1.1 IPアドレスの設定

iRMCのIPアドレスを設定します。

☞ 重要

- ▶ ご購入時はDHCPを使用する設定になっています。固定IPアドレスを使用する場合、設定を行ってください。
- ▶ 「5 ネットワーク設定」(→P.21) のネットワーク設定もご覧ください。後から設定したもののが優先されます。
- ▶ BIOSセットアップの起動、終了方法については、コンピューター本体の『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」をご覧ください。

- 1 BIOSセットアップを起動します。
- 2 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 3 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「IPアドレス設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「固定アドレスを使う」を選択し、【Enter】キーを押します。

6 次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイアドレス

 **POINT**

- ▶ DHCPを使用している場合は、DHCPサーバーにより割り当てられたIPアドレスが表示されます。

7 指定するネットワークアドレスをそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。

8 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

1.2 iRMCにログインする

ネットワークを利用して監視するコンピューターから、本コンピューターに接続します。

 **重要**

- ▶ LANコネクタ1に接続したネットワークからのみ、接続することができます。
- ▶ iRMCのサポートするWebブラウザーは次のとおりです。
 - ・Internet Explorer 11
 - ・Microsoft Edge

- 1 iRMCにログインするコンピューターを、iRMCと同じネットワークに接続します。
- 2 ログインするコンピューターからWebブラウザーを起動します。
- 3 Webブラウザーのアドレス欄に、設定した固定IPアドレス、またはDHCPサーバーから割り当てられたIPアドレスを入力し、【Enter】キーを押します。
「1.1 IPアドレスの設定」(→P.5)で設定したIPアドレスを入力してください。
パスワード入力画面が表示されます。

 **POINT**

- ▶ 「このサイトは安全ではありません」と表示された場合
「詳細」をクリックし、「Webページへ移動」をクリックしてください。



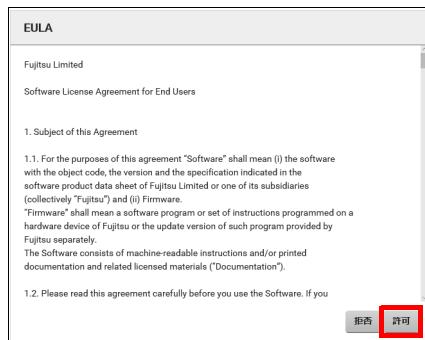
4 次のユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

- ・ユーザー名（ご購入時）：admin
- ・パスワード（ご購入時）：admin



POINT

- ▶ 初回起動時は、次の画面が表示されます。「許可」をクリックしてください。



iRMCにログインします。



POINT

- ▶ ユーザーアカウントを設定することができます。
詳しくは、「2 iRMCユーザーアカウント」(→P.9) をご覧ください。
- ▶ ご購入時はiRMCにログインしてから5分間何も操作をしないと、セッションタイムアウトの画面が表示され、その後も操作がないとパスワード入力画面に戻ります。
セッションタイムアウトまでの時間設定については、「5.2 セッションタイムアウト時間の設定」(→P.23) をご覧ください。

1.3 言語の変更

iRMCの画面に表示する言語を設定します。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 画面右上の言語で「日本語」を選択し、画面表示を日本語に変更します。



☞ 重 要

- ▶ 日本語の他、英語、ドイツ語が選択できます。
- ▶ 言語の変更は、iRMC S5設定変更権限があるアカウントで実施してください。
設定変更権限については、「2.1 新しいユーザーアカウントの作成」（→P.10）をご覧ください。

2 iRMCユーザーアカウント

本コンピューターは、iRMCのすべての設定許可を持つ「管理者アカウント」が用意されています。

ご購入時の「管理者アカウント」の設定は次のとおりです。

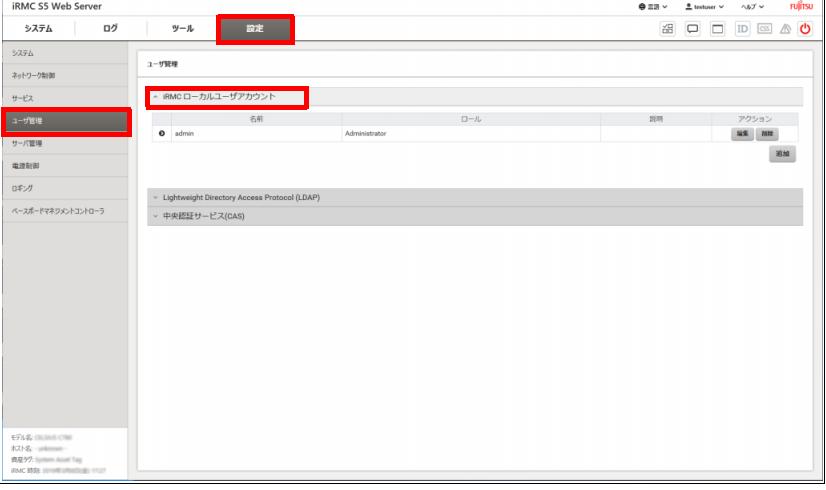
- ・ユーザー名：admin
- ・パスワード：admin

重 要

- ▶ 「管理者アカウント」は、iRMCの様々な設定を変更する権限を持っています。最初にログインしたときになるべく早く新しい「管理者アカウント」を作成して、ご購入時の「管理者アカウント」のパスワードを変更するか、無効化することをお勧めします。
ご購入時の設定のままいると、第三者に勝手にiRMCの設定を変更されるおそれがあります。
- ▶ パスワードを変更する場合は、変更後のパスワードを絶対に忘れないようにしてください。
- ▶ ユーザーアカウント情報の編集は、ユーザーアカウントの変更権限を持つアカウントから実行してください。すべてのユーザーアカウントからユーザーアカウントの変更権限を削除すると、ユーザーアカウントの変更ができなくなります。
- ▶ すべてのユーザーアカウントを無効にした場合、iRMCにアクセスできなくなります。
すべてのユーザーを無効にしないでください。
- ▶ iRMCへのログインは、LANアクセス権が必要となります。すべてのユーザーアカウントからLANチャネル権限が削除された場合、iRMCのWEB-UIにログインできなくなります。
- ▶ ユーザーアカウント／パスワードの忘却、およびユーザーアカウントの設定ミスなどにより、ご購入時のユーザーアカウントに戻す場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。修理は、保証期間にかかるわらず有償になります。

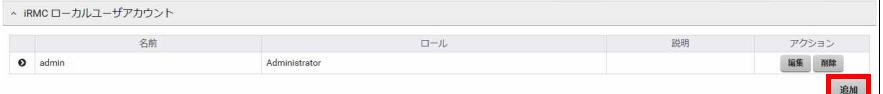
2.1 新しいユーザーアカウントの作成

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザ管理」→「iRMCローカルユーザアカウント」の順にクリックします。



The screenshot shows the iRMC 55 Web Server interface. The top navigation bar includes tabs for 'システム' (System), 'ログ' (Log), 'ツール' (Tools), and '設定' (Setting). The '設定' tab is highlighted with a red box. On the left, a sidebar menu lists 'システム' (System), 'ネットワーク制御' (Network Control), 'サービス' (Services), and 'ユーザ管理' (User Management), with 'ユーザ管理' also highlighted by a red box. The main content area is titled 'ユーザ管理' (User Management) and contains a sub-section titled 'iRMC ローカルユーザアカウント' (iRMC Local User Account). This sub-section displays a table with one row for 'admin'. The table columns are '名前' (Name), 'ロール' (Role), '説明' (Description), and 'アクション' (Actions). The 'admin' row has a '編集' (Edit) button and a '削除' (Delete) button. Below the table, there are two collapsed sections: 'Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)' and '中央認証サービス(CAS)'.

- 3 「追加」をクリックします。



The screenshot shows a modal dialog box titled 'iRMC ローカルユーザアカウント' (iRMC Local User Account). It contains a table with one row for 'admin'. The table columns are '名前' (Name), 'ロール' (Role), '説明' (Description), and 'アクション' (Actions). The 'admin' row has a '編集' (Edit) button and a '削除' (Delete) button. At the bottom right of the dialog, there is a red box around the '追加' (Add) button.

「ローカルユーザアカウントの追加」が表示されます。

4 「ユーザ情報」タブで、次の項目を入力します。

ローカルユーザアカウントの追加

ユーザ情報 アクセス設定 SNMPv3設定 Eメール設定 証明書

ユーザを有効にする

名前 * 備が必要です。

パスワード 備が必要です。

パスワード確認

説明

OK キャンセル

ユーザを有効にする	チェックを付けます
名前	作成するアカウントのユーザー名を入力します。 半角英数字で16文字以内。
パスワード	アカウントのパスワードを入力します。 半角英数字（大文字／小文字）で20文字以内。 ※ パスワードは必ず設定してください。
パスワード確認	確認のため、上記のパスワードを再入力します。
説明	作成するユーザーの一般的な説明を入力してください。 半角で32文字以内。または、全角で10文字以内。

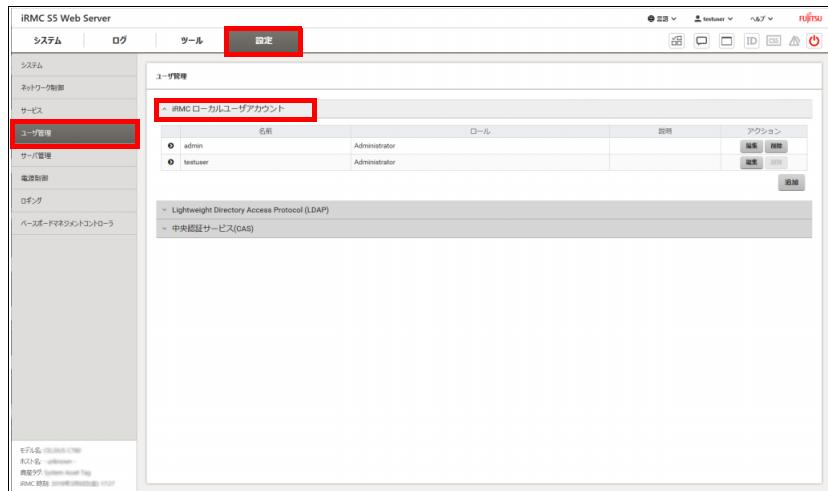
5 「OK」をクリックして、アカウントを作成します。

「iRMCローカルユーザアカウント」に追加したアカウントが表示されます。

2.2 ユーザーアカウント名／パスワードの設定

新規作成したユーザー アカウント／既存のユーザー アカウントのユーザー名および、パスワードを変更します。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザ管理」→「iRMCローカルユーザアカウント」の順にクリックします。



- 3 設定を変更したいユーザー アカウントの「編集」をクリックします。



「ローカルユーザアカウントの編集」が表示されます。

- 4 「ユーザ情報」タブで、「名前」に新しい名前、「パスワード」と「パスワード確認」に、変更するパスワードを入力します。

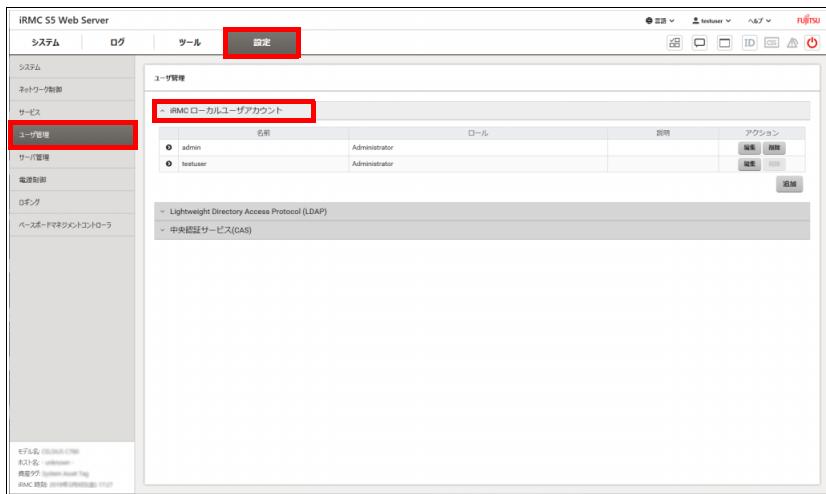


- 5 「OK」をクリックして、設定を変更します。

2.3 ユーザーアカウントの権限設定

ユーザー アカウントの権限の設定を変更します。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザ管理」→「iRMCローカルユーザアカウント」の順にクリックします。



- 3 権限設定を変更したいユーザー アカウントの「編集」をクリックします。



「ローカルユーザアカウントの編集」が表示されます。

4 「アクセス設定」タブ→「IPMI権限」タブの順にクリックし、ユーザーアカウントの権限を変更します。



LAN チャネル権限	ユーザーが LAN 経由 (WEB-UI) で iRMC に接続するときの権限を選択してください。 初期値：管理者 アクセス権は「ユーザ」が最も低く、「オペレーター」、「管理者」、「OEM」の順に権限が高くなります。
シリアルアクセス権限	本項目は変更しないでください。 初期値：管理者 ※ 本コンピューターは、シリアルポートからの接続はサポートしていません。
ユーザーアカウント変更を有効にする	iRMC のユーザーアカウントの設定を変更する権限を指定します。 ユーザーアカウント設定を変更されたくない場合は、本項目のチェックを外してください。 初期値：チェックあり
iRMC 設定変更を有効にする	iRMC の設定を変更する権限を指定します。 iRMC の設定を変更されたくない場合は、本項目のチェックを外してください。 初期値：チェックあり

☞ 重要

- ▶ ユーザーアカウント情報の編集は、ユーザーアカウントの変更権限を持つアカウントで実行してください。

5 「OK」をクリックして、権限設定を変更します。

2.4 ユーザーアカウントの無効化

一時的にユーザーアカウントを無効にすることができます。



- ▶ すべてのユーザーアカウントを無効化しないでください。
すべてのユーザーアカウントを無効化すると、WEB-UIにログインできなくなります。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザ管理」→「iRMCローカルユーザアカウント」の順にクリックします。

名前	ロール	説明	アクション
admin	Administrator		<button>編集</button> <button>削除</button>
testuser	Administrator		<button>編集</button> <button>削除</button>

- 3 無効にしたいユーザーアカウントの「編集」をクリックします。

名前	ロール	説明	アクション
admin	Administrator		<button>編集</button> <button>削除</button>
testuser	Administrator		<button>編集</button> <button>削除</button>

「ローカルユーザアカウントの編集」が表示されます。

- 4 「アクセス設定」タブ→「IPMI権限」タブの順にクリックし、「ユーザー アカウント変更を有効にする」のチェックを外します。



POINT

- ▶ ユーザーアカウントを有効にする場合は、「ユーザー アカウント変更を有効にする」にチェックを付けてください。

- 5 「OK」をクリックして、設定を変更します。

2.5 ユーザーアカウントの削除

使用しないユーザーアカウントを削除することができます。



- 必ず、LANチャネル権限とユーザー設定権限／iRMC設定権限を持つユーザーアカウントを1つ作成してください。また、そのユーザーアカウントは無効にしないでください。
- ユーザーアカウントを削除すると、元に戻すことはできません。
削除しても問題ないか、必ず確認をしてから実行してください。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザ管理」→「iRMCローカルユーザアカウント」の順にクリックします。

The screenshot shows the iRMC SS Web Server interface. The top navigation bar includes 'iRMC SS Web Server', '言語', 'admin', and 'ログアウト'. Below the navigation is a toolbar with icons for refresh, search, and other functions. The left sidebar contains links for 'システム', 'ログ', 'ツール', '設定', 'ユーザ管理' (which is highlighted with a red box), 'サーバ管理', '電源切替', 'ログ', and 'ベースドマネイメントコントローラ'. The main content area has a title 'ユーザ管理' and a sub-section 'iRMCローカルユーザアカウント' (also highlighted with a red box). A table lists two users: 'admin' (Role: Administrator) and 'testuser' (Role: Administrator). The table includes columns for '名前' (Name), 'ロール' (Role), '説明' (Description), and 'アクション' (Actions). The 'Actions' column for 'testuser' shows '編集' (Edit) and '削除' (Delete) buttons, with '削除' highlighted with a red box. Below the table are sections for 'Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)' and '中央認証サービス(CAS)'.

- 3 削除したいユーザーアカウントの「削除」をクリックします。

This screenshot shows the 'Local User Accounts' table from the previous step. The 'testuser' row is selected. The 'Actions' column for 'testuser' contains two buttons: '編集' (Edit) and '削除' (Delete), with '削除' highlighted with a red box.

- 4 確認画面が表示されたら、「はい」をクリックします。

A confirmation dialog box titled '確認' (Confirmation) is shown. It asks 'ユーザtestuserを削除してもよいですか?' (Do you want to delete the user 'testuser?'). There are two buttons at the bottom: 'はい' (Yes) and 'いいえ' (No), with 'はい' highlighted with a red box.

ユーザーアカウントが削除されます。

3 電源管理

本コンピューターの電源制御管理を、システム管理者が遠隔で行える機能です。



- ▶ 本機能はシステム管理者のみ使用できます。

3.1 電源制御の設定

遠隔で行う電源制御方法を設定します。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 画面右上の○をクリックします。



- ▶ コンピューター側の電源が入っている場合は○、電源が入っていない場合は○と表示されます。

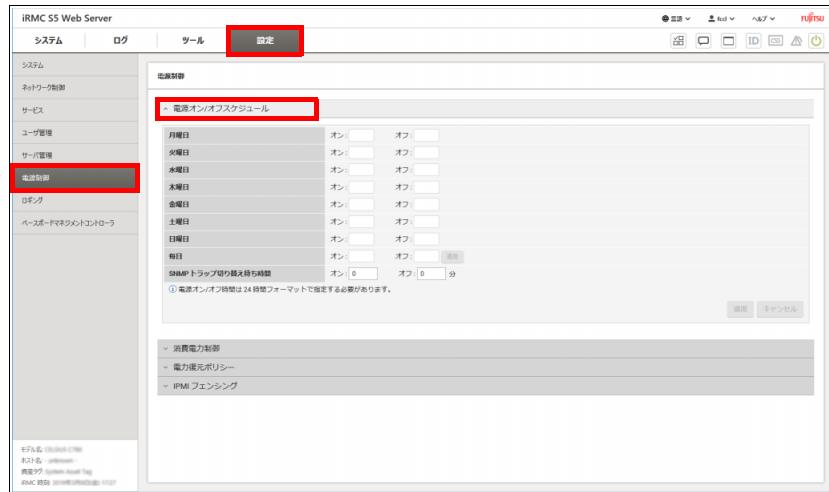
電源オン	本コンピューターの電源を入れます。
電源ボタンを押す	コンピューターの電源ボタンと同じ動作をします。 電源ボタンを押す動作は、電源オフ状態、省電力状態、継続状態など、OSの電源ボタンの設定により異なります。
即時リセット	本コンピューターではサポートしていません。
即時電源オフ	本コンピューターを強制終了します。
パワーサイクル	本コンピューター上のOSから強制終了をし、しばらくして自動的に電源を入れます。
NMI発行	本コンピューターではサポートしていません。

- 3 確認画面が表示されたら、「はい」をクリックします。

3.2 電源投入時刻の設定

コンピューターの電源を、iRMCのタイマーで制御します。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「電源制御」→「電源オン/オフスケジュール」の順にクリックします。



☞ 重要

- ▶ BIOSセットアップメニューのWakeup on RTCと、本設定は同期していません。それぞれ独立したタイマーで制御しています。
Wakeup on RTCについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wakeup on RTCを有効にする」をご覧ください。

- 3 自動で電源を入れる時刻を入力します。

オン	本コンピューターの電源を、自動的に入れる時刻（0:00～23:59）を設定します。
オフ	使用できません。OSのスケジュール機能で電源を切ってください。（OSの強制終了で動作するためデータが壊れるおそれがあります。）
SNMP トラップ 切り替え待ち時間	電源を入れる時刻になる前に、設定した分数前にSNMP トラップ（0～255）を送信します。

- 4 「適用」をクリックします。

4 IDランプの遠隔操作

コンピューター本体前面および本体背面にあるIDランプは、WEBインターフェースから遠隔で点灯／消灯させることができます。これにより、障害が発生した場合に、本装置をラックから素早く識別することができます。

4.1 IDランプの点灯／消灯

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 画面右上のIDをクリックします。



クリックするごとに、状態が切り替わります。

IDランプの表示	コンピューター本体のIDランプ状態
	前面および背面のIDランプが、青色点灯します。
	前面および背面のIDランプが、消灯します。

5 ネットワーク設定

システム管理者がIPアドレス、WEBインターフェース、DNSの設定を行います。
ご利用になるシステムやネットワーク環境に合わせて設定してください。

■ 重要

- ▶ 設定を誤ると、外部から本コンピューターのiRMCへ接続できなくなります。
その場合、BIOSセットアップメニューからIPアドレスを指定し直す必要があります。
ご注意ください。

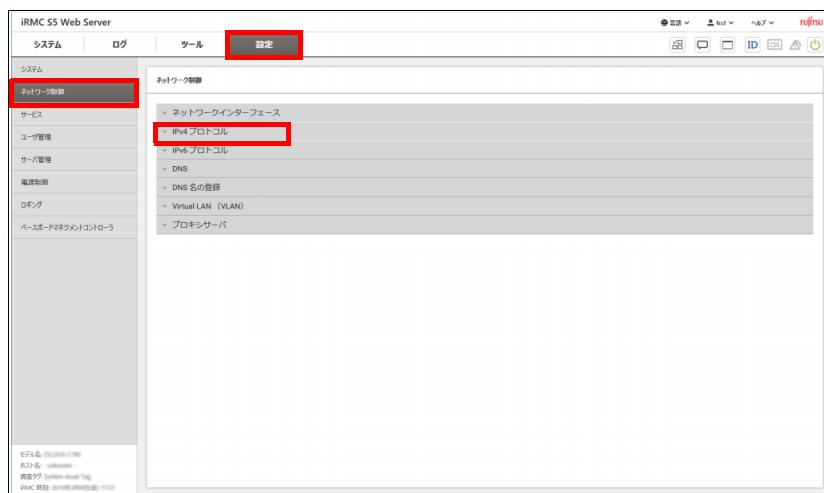
5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)

iRMCの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」の設定を行います。
本設定は、「1.1 IPアドレスの設定」(→P.5) のBIOSセットアップメニューで行う設定と同じです。

POINT

- ▶ 本設定とBIOSセットアップメニューでの設定は連動しています。後から設定を変更した結果が優先されます。

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ネットワーク制御」→「IPv4プロトコル」の順にクリックします。



3 「IPv4プロトコル」の設定をします。

- ・「IPv4プロトコルを有効にする」にチェックを付けます。
- ・固定IPの場合、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイアドレス」に入力します。
- ・DHCPの場合、「DHCPを有効にする」にチェックを付けます。



4 「適用」をクリックします。

「適用」クリック後は、入力したIPアドレスに変更されます。新しいIPアドレスでiRMCにログインしてください。(→P.6)

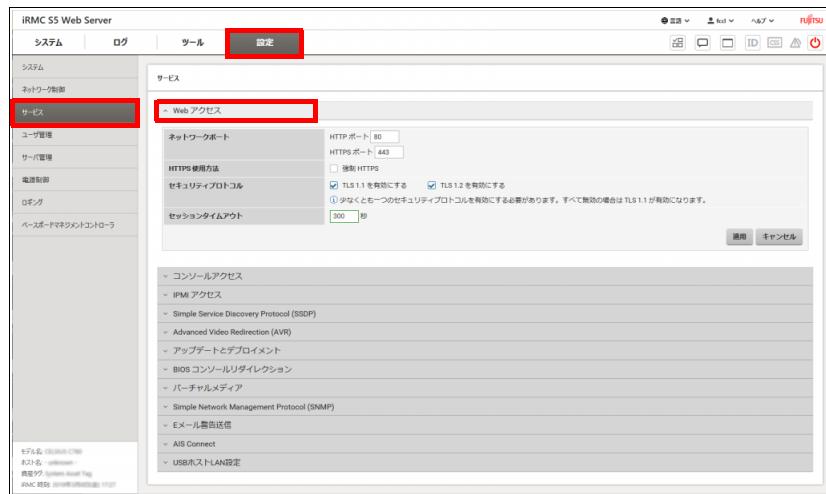
☞ 重要

- ▶ 新しいIPアドレスでiRMCにログインできない場合、iRMCのIPアドレスの入力を誤ったか、接続できないIPアドレスを設定した可能性があります。
この場合、「1.1 IPアドレスの設定」(→P.5)に従い、BIOSセットアップメニューからIPアドレスを設定し直してください。
- ▶ IPv4プロトコル以外の項目はサポートしていません。設定を変更しないでください。

5.2 セッションタイムアウト時間の設定

イーサネット設定後に、自動で接続が切断されるまでの時間を指定します。

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「サービス」→「Webアクセス」の順にクリックします。



- 3 「セッションタイムアウト」に、タイムアウトするまでの時間（秒）を入力し、「適用」をクリックします。



重要

- ▶ 「Webアクセス」設定項目は、「セッションタイムアウト」以外の変更はしないでください。

POINT

- ▶ 「セッションタイムアウト」で設定した時間になると次の画面が表示されます。
作業を続ける場合は、「延長する」をクリックします。



そのままの操作しないでいると、接続が切断されパスワード入力画面（→P.7）に戻ります。

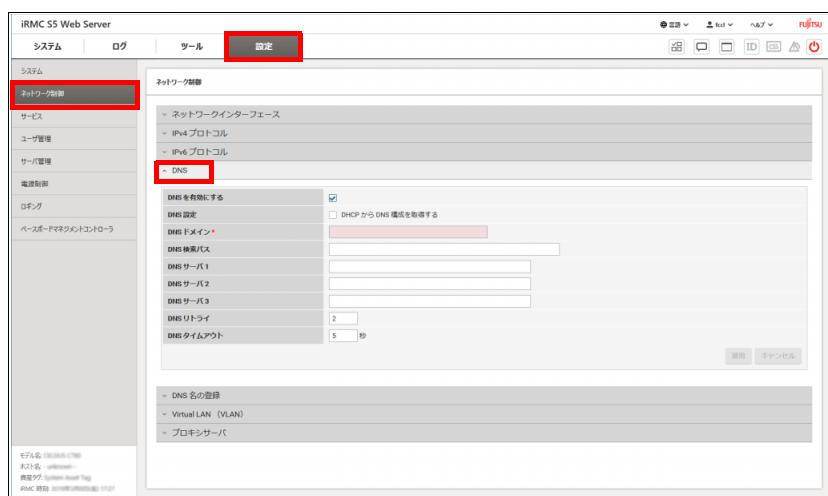
5.3 DNS設定

iRMCのドメインネームサービス (DNS) を有効にできます。これにより、IPアドレスではなく具体的なDNS名を使用できるようになります。

☞ 重 要

- ▶ DNSサーバーが存在しない場合や、DNSを使用しない場合は本設定の変更はしないでください。

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ネットワーク制御」→「DNS」の順にクリックします。



- 3 DNS設定を有効にする場合「DNSを有効にする」にチェックを付けます。
ご購入時はチェックが付いています。



- 4 DNS構成を自動取得する場合は、DNS設定の「DHCPからDNS構成を取得する」にチェックを付けます。**

DNSサーバーのIPアドレスは、DHCPにより自動取得されます。

POINT

- ▶ DNS構成を自動取得しない場合および、固定IPアドレスを使用している場合
 1. 「DNS ドメイン」の欄にDNSサーバーのデフォルトドメインを入力してください。
 2. DNSサーバーのIPアドレスを「DNSサーバ」欄に入力します。
 DNSサーバーのIPアドレスは最大で3つまで設定できます。

- 5 DNSに対してリトライを行う回数を「DNSリトライ」欄に入力します。**

- 6 DNS応答のタイムアウト時間を「DNSタイムアウト」欄に入力します。**

- 7 「適用」をクリックし、設定を反映します。**

5.4 ネットワーク設定の初期値

ネットワーク設定メニューの初期値です。

「5.1 イーサネット設定（IPアドレスの設定）」、「5.2 セッションタイムアウト時間の設定」、「5.3 DNS設定」で説明がない項目については、初期値から設定を変更しないでください。

□ネットワークインターフェース

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
MACアドレス	—	iRMC内蔵LANコントローラーのMACアドレスが表示されます。
インターフェース スピード	自動検出	LANの速度を指定します。 「自動検出」は、自動的に正しい伝送速度および全二重または半二重方式の接続方法を決定します。
ネットワークポート	(空欄)	
最大転送単位 (MTU)	1500	通信時に1回の転送（1フレーム）で送信できるデータの最大値を指定します。
Bondingを 有効にする	チェックなし	

□ IPv4プロトコル

※「1.1 IPアドレスの設定」(→P.5)で値を変更した場合、初期値とは異なる値が指定されています。

項目	初期値	説明
IPv4プロトコルを有効にする	チェックあり	
DHCPを有効にする	チェックなし	DHCPの有効／無効を指定します。 ※ ネットワーク上にDHCPサーバーが存在しない場合は、有効にしないでください。
IPアドレス	0.0.0.0 <small>注</small>	iRMC内蔵LANコントローラーのIPアドレスを指定します。
サブネットマスク	0.0.0.0 <small>注</small>	iRMC内蔵LANコントローラーのサブネットマスクを指定します。
ゲートウェイ アドレス	0.0.0.0 <small>注</small>	iRMC内蔵LANコントローラーが参加するLAN内のデフォルトゲートウェイのIPv4アドレスを指定します。

注：「1.1 IPアドレスの設定」(→P.5)で設定したアドレスが表示されます。

□ IPv6プロトコル

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目	初期値	説明
IPv6プロトコルを有効にする	チェックあり	
IPv6手動設定を有効にする	チェックなし	IPv6設定を手動で行うかどうかを選択します。ご購入時は無効に設定されています。
インターフェースID ソース	EUI-64 (MACアドレス ベース)	
IPv6静的アドレス	2880::64	
プレフィックス長	8	
IPv6静的 ゲートウェイ	::	
静的アドレス	(空欄)	
リンクローカル アドレス		自動に設定されます。
静的ゲートウェイ	(空欄)	

□ DNS

項目名	初期値	説明
DNSを有効にする	チェックあり	
DNS設定	チェックなし	
DNS ドメイン	(空欄)	「DHCPからDNS構成を取得する」が無効な場合、DNSサーバーのデフォルトドメインを設定します。
DNS検索パス	(空欄)	DNSサーバーを検索するパスを入力します。
DNSサーバー1～3	(空欄)	「DHCPからDNS構成を取得する」が無効な場合、DNSサーバーのIPアドレスを入力します。 最大で3つまで入力可能です。
DNSリトライ	2	DNSのリトライ回数を指定します。
DNSタイムアウト	5	DNS応答のタイムアウト時間（秒）を指定します。

□ DNS名の登録

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
DNS名登録	DHCPサーバによるDHCPアドレスをDNSに登録します。	
iRMC名の使用	iRMC	「ホスト名ではなくiRMC名を使用」が有効の場合に、iRMCの登録名に使用する文字列を指定します。
MACアドレスの使用	チェックあり	
拡張子の使用	チェックなし	「-iRMC」の拡張子を追加します。
DNS名登録		自動に設定されます。

□ VLAN設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目	初期値	説明
VLANを有効にする	チェックなし	iRMCのVLANサポート機能を有効にします。
VLAN ID	0	iRMCが属する仮想ネットワーク（VLAN）のVLAN IDを指定します。 許容される値の範囲は：1 ≤ VLAN ID ≤ 4094までです。
VLAN プライオリティ	0	「VLAN ID」で指定したVLANにおけるiRMCのVLANプライオリティを指定します。許容される値の範囲は0 ≤ VLAN プライオリティ ≤ 7です。

□ プロキシサーバ

項目	初期値	説明
サーバアドレス	(空欄)	プロキシサーバのIPアドレスを入力します。
サーバポート	(空欄)	プロキシサーバと通信するときのポート番号を入力します。
ユーザ名	(空欄)	プロキシサーバのユーザ名を入力します。
パスワード	(空欄)	プロキシサーバのパスワードを入力します。
パスワード確認	(空欄)	確認のため、上記のパスワードを再入力します。

6 センサー確認

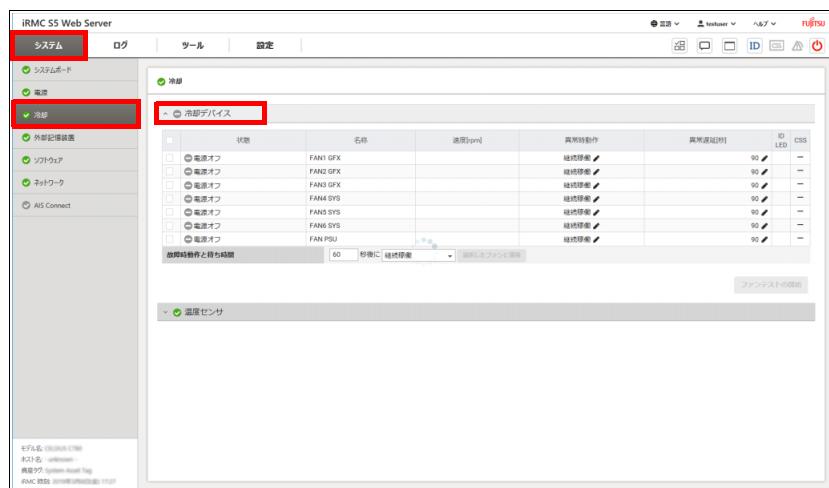
本コンピューターに搭載されているセンサーで、ファンの動作状況、コンピューター内部の温度を確認することができます。

POINT

- ▶ その他のセンサーは、本コンピューターではサポートしていません。

6.1 ファンの状態を確認する

- 1 iRMCにログインします（→P.6）。
- 2 「システム」タブをクリックし、画面左側の「冷却」→「冷却デバイス」の順にクリックします。



●状態アイコンの説明

	測定値が危険のしきい値を超えてています。システムの稼働状態は危険な状態にある可能性があり、最悪の場合データ喪失の危険性があります。
	ファンは正常に動作しています。
	ファンが停止しているか、該当する部品は本コンピューターには搭載していません。

●各項目の説明

状態	ファンの状態が表示されます。
名称	監視しているファンの名称です。
速度 [rpm]	ファンの回転数をRPM (Revolution Per Minute) で表示します。
異常時動作	本コンピューターではサポートしていません。
異常遅延 [秒]	本コンピューターではサポートしていません。
ID LED	
CSS	本コンピューターではサポートしていません。

☞ 重 要

- 「故障時動作と待ち時間」は変更しないでください。

6.2 溫度センサーの状態を確認する

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「システム」タブをクリックし、画面左側の「冷却」→「温度センサ」の順にクリックします。

状態	名前	温度 (°C)	警告レベル (°C)	危険レベル (°C)	異常時動作	CSS
OK	Ambient	27	37	42	動作停止	-
OK	Mem Regulator	28	64	68	動作停止	-
OK	PSU	-	-	-	動作停止	-
OK	POH	-	-	-	動作停止	-
OK	PSU Inlet	37	37	61	動作停止	-
OK	PSU	44	63	67	動作停止	-
OK	PCI SLOT2	-	-	-	動作停止	-
OK	PCI SLOT3	-	-	-	動作停止	-
OK	RAID Controller	-	-	-	動作停止	-
OK	HDD	-	-	-	動作停止	-
OK	FBU	-	-	-	動作停止	-

●状態アイコンの説明

	測定値が危険のしきい値を超えてています。システムの稼働状態は危険な状態にある可能性があり、最悪の場合データ喪失の危険性があります。
	測定値が警告のしきい値を超えてています。設置環境が高温になっていないかどうか確認してください。システムはまだ危険な状態にありませんが、定期的に監視するようにしてください。
	温度はしきい値を超えてなく、正常に動作しています。
	温度センサーが停止しているか、該当するセンサーは本コンピューターには搭載していません。

●各項目の説明

状態	温度センサーの状態が表示されます。
名称	監視対象の部品の名称です。
温度 [°C]	各部の温度を表示します。
警告レベル [°C]	警告レベルと判定する温度です。この温度を超えただけでは装置に異常が起こることはありませんが、設置環境や装置の稼働状態などの継続監視が必要です。
危険レベル [°C]	危険レベルと判定する温度です。この温度を超えた場合、装置の動作に異常をきたす可能性があります。
異常時動作	本コンピューターではサポートしていません。
CSS	-

重要

- ▶ 「異常時動作」は変更しないでください。

7 システムイベントログ (SEL)

iRMCが検出したコンピューターの状態や警告を、記録／確認することができます。

7.1 システムイベントログ (SEL) を確認する

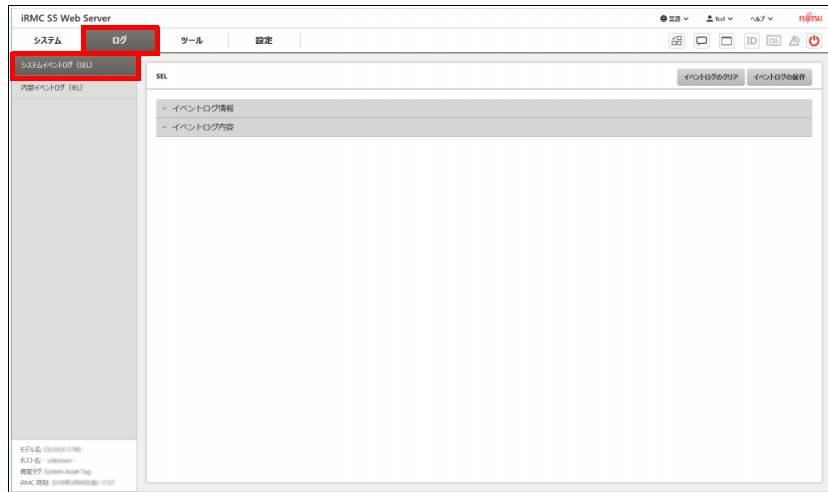
- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「ログ」タブをクリックし、画面左側の「システムイベントログ (SEL)」→「イベントログ内容」の順にクリックします。

並び順	発生日時	コード	発生元	説明	警告グループ
①	2019/03/12 10:13:20	370001	SMS	Boot from hard drive completed	システム状態
①	2019/03/12 10:13:20	370021	Microsoft	Operating system boot 12-Mar-2019 10:13:18	システム状態
①	2019/03/11 17:17:30	360033	NodeManager	Generic IPMI event: GenId '2C', SensorType 'hEDC', EventType '75', SensorName 'ME FW Health Sensor', EventData: Ad 17 00	その他
①	2019/03/08 18:31:52	370001	SMS	Boot from hard drive completed	システム状態
①	2019/03/08 18:31:52	370021	Microsoft	Operating system boot 08-Mar-2019 18:33:51	システム状態
①	2019/03/08 15:17:10	370001	SMS	Boot from hard drive completed	システム状態
①	2019/03/08 15:17:10	370021	Microsoft	Operating system boot 08-Mar-2019 15:12:08	システム状態
①	2019/03/08 15:05:23	370001	SMS	Boot from hard drive completed	システム状態
①	2019/03/08 15:05:23	370021	Microsoft	Operating system boot 08-Mar-2019 15:04:21	システム状態
①	2019/03/06 16:17:08	160014	iRMC SS	Online firmware flash: iRMC SS reboot EEPROM 2 Version 2.00	リモート管理

システムイベントログについては、「7.3 エラーメッセージ」(→P.33)をご覧ください。

7.2 システムイベントログ (SEL) を削除する

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「ログ」タブをクリックし、画面左側の「システムイベントログ (SEL)」をクリックします。



- 3 画面右上の「イベントログのクリア」をクリックします。
- 4 確認画面が出るのでクリアする場合は「はい」をクリックします。

7.3 エラーメッセージ

システムイベントログに記録される主なエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
F	
'FANn XXX' Fan failed	該当するファンが故障した疑いがあります。本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
M	
'DIMM-XX' Memory: Uncorrectable error (ECC) 'DIMM-XX': Memory module failed (disabled) Fatal NMI	メモリスロット DIMM nn で訂正不可能なエラーが発生しました。本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
POST - No memory installed	装置にメモリが搭載されていないか、正常に認識できていません。 本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Power unit primary power lost	装置稼働中に、外部からの給電が絶たれました。ACケーブルが取り外されたか、瞬断が発生した可能性があります。ACケーブルが確実に接続されているか確認してください。
'PSU': Power supply failed	電源が切れているときに、外部からの給電が絶たれました。ACケーブルが取り外されたか、瞬断が発生した可能性があります。ACケーブルが確実に接続されているか確認してください。
T	
'XXXX': Temperature high critical: **C	該当するセンサーの温度が、危険しきい値を超みました。設置環境の温度が高くないか、吸排気ができる環境になっているか確認してください。それでも本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'XXXX': Temperature high warning: **C	該当するセンサーの温度が、警告しきい値を超みました。設置環境の温度が高くないか、吸排気ができる環境になっているか確認してください。このログが記録されても装置はまだ危険な状態ではありませんが、継続して監視するようにしてください。

8 Eメール通知

本コンピューターには、異常が発生した場合にEメールで通知をする機能が設られています。Eメール通知を行うには、Eメール送信サーバーの設定と、Eメール送信先アドレスの設定を行う必要があります。

☞ 重 要

- ▶ Eメール通知機能を使用するには、本コンピューターと通信可能なネットワーク内にSMTPサーバーが存在している必要があります。
- ▶ 本機能は、ネットワーク設定を行わないと正常に動作しません。お客様のネットワーク環境にあわせた設定を行ってください。
Eメールが正しく送信されない場合は、「8.3 テストメールとEメール通知の確認」(→P.41)をご覧になり、問題箇所の特定を行ってください。
なお、ケーブル不良、ネットワークハブの障害など、通信経路上の不具合については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- ▶ 本コンピューターのEメール送信機能は、POP before SMTP（メール送信前に、指定したPOP3サーバーに事前にアクセスする認証方式）に対応しておりません。SMTPサーバーへの認証方式は「認証を行わない」方式か、RFC2554（SMTP認証）に定義された認証方式を使用してください。

8.1 Eメール通知の設定

Eメール送信機能を有効にするには、SMTPサーバー設定と、宛先アドレス（システム管理者やネットワーク管理者のアドレス）を指定する必要があります。また、設定に必要となるSMTPサーバーに関する情報を、ネットワーク管理者に確認する必要があります。

■ SMTPサーバーの情報を確認する

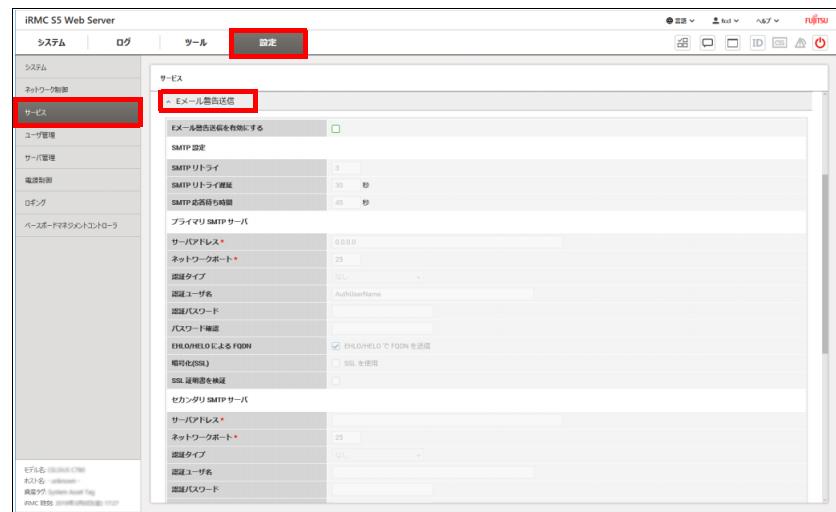
ネットワーク管理者に、SMTPサーバーに関する次の情報を事前に問い合わせ、確認してください。この情報は、Eメール通知の設定を行ううえで必要になります。

- SMTPサーバーのIPアドレスまたはDNS名
- SMTPサーバーとの通信ポート番号
- 認証方式（認証なし、またはRFC2554（SMTP認証）に定義された認証処理）

■ SMTPサーバーの接続設定

Eメールを送信するSMTPサーバーとの通信設定を行います。

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「サービス」→「Eメール警告送信」の順にクリックします。



- 3 「Eメール警告送信を有効にする」にチェックを付けます。
Eメール送信機能が有効になります。

<input checked="" type="checkbox"/> Eメール警告送信を有効にする	
SMTP 設定	
SMTP リトライ	3
SMTP リトライ遅延	30 秒
SMTP 応答待ち時間	45 秒

- 4 「プライマリSMTPサーバ」を設定します。
SMTPサーバーに接続するために、「■ SMTPサーバーの情報を確認する」(→P.34)でシステム管理者に確認した次の情報を入力します。

プライマリ SMTP サーバ	
サーバアドレス*	0.0.0.0
ネットワークポート*	25
認証タイプ	なし
認証ユーザ名	AuthUserName
認証パスワード	
パスワード確認	
EHLO/HELOによる FQDN	<input checked="" type="checkbox"/> EHLO/HELO で FQDN を送信
暗号化(SSL)	<input type="checkbox"/> SSL を使用
SSL 証明書を検証	<input type="checkbox"/>

サーバアドレス	SMTPサーバーのIPアドレス、またはDNS名を入力します。
ネットワークポート	SMTPサーバーと通信するときのポート番号を入力します。
認証タイプ	SMTPサーバーが採用している認証タイプに合った設定を指定します。

※「EHLO/HELOでFQDNを送信」はチェックを付けたままにしてください。

5 必要に応じて、「セカンダリSMTPサーバ」を設定します。

セカンダリ SMTP サーバ

サーバアドレス*	<input type="text"/>	値が必要です。
ネットワークポート*	<input type="text"/> 25	
認証タイプ	<input type="text"/> なし	
認証ユーザ名	<input type="text"/>	
認証パスワード	<input type="text"/>	
パスワード確認	<input type="text"/>	
EHLO/HELOによる FQDN	<input checked="" type="checkbox"/> EHLO/HELO で FQDN を送信	
暗号化(SSL)	<input type="checkbox"/> SSL を使用	
SSL 証明書検証	<input type="checkbox"/>	

サーバアドレス	SMTP サーバーの IP アドレス、または DNS 名を入力します。
ネットワークポート	SMTP サーバーと通信するときのポート番号を入力します。
認証タイプ	SMTP サーバーが採用している認証タイプに合った設定を指定します。

※「EHLO/HELO で FQDN を送信」はチェックを付けたままにしてください。

6 「Eメールフォーマット」を設定します。

Eメールフォーマット

送信元*	<input type="text"/> MailFrom@domain.com
題名*	<input type="text"/> FixedMailSubject
メッセージ*	<input type="text"/> FixedMailMessage
管理者名	<input type="text"/> ITS_UserInfo0
管理者電話番号	<input type="text"/> ITS_UserInfo1
国コード	<input type="checkbox"/>
カスタマー ID	<input type="text"/>
サーバ URL	<input type="text"/> http://www.server.com
添付	<input type="checkbox"/> 「重大な OS 停止」イベントEメールにスクリーンショットを添付

適用 キャンセル

「送信元」に、Eメールのヘッダーに記録される送信元メールアドレスを入力します。
Eメールを受信したときに、発信者（送信元）として表示されます。

☞ 重 要

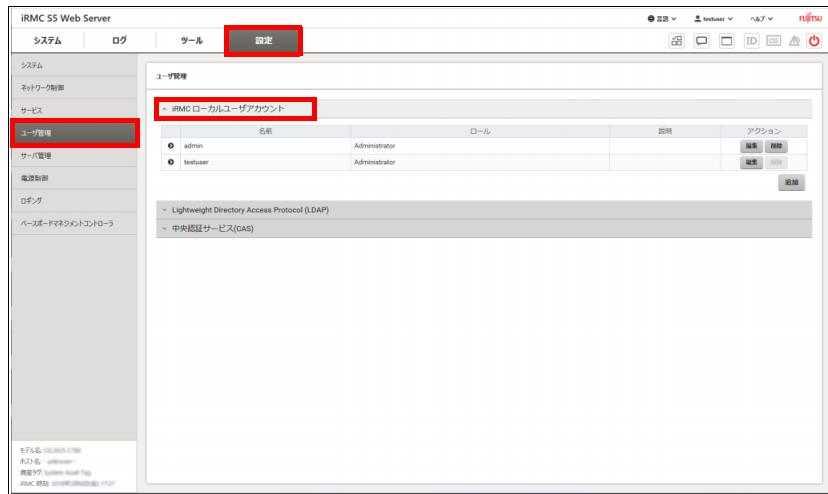
- ▶ 「送信元」メールアドレスは、初期値のままでもEメール送信機能を使用できます。
- ▶ 「サーバURL」のアドレスは、本コンピューターでは自動取得されません。
表示が不要な場合は「サーバURL」の欄を削除してください。
- ▶ 「送信元」、「サーバURL」以外の項目は変更しないでください。
- ▶ 「「重大なOS停止」イベントEメールにスクリーンショットを添付」はサポートしていません。

7 「適用」をクリックし、設定を反映します。

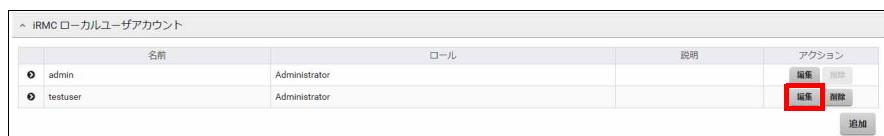
■ Eメール送信アドレスの設定

Eメールを送信する宛先アドレスの設定を行います。

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザー管理」→「iRMCローカルユーザーアカウント」の順にクリックします。

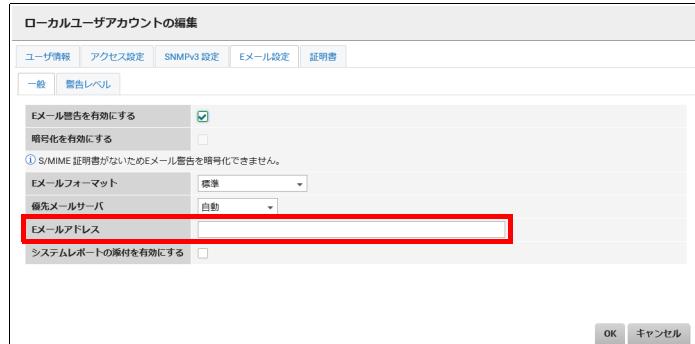


- 3 Eメールを送信するユーザーアカウントの「編集」をクリックします。



「ローカルユーザーアカウントの編集」が表示されます。

- 4 「Eメール設定」タブ→「一般」タブの順にクリックし、Eメールアドレスを入力します。



▶ 「Eメール警告送信はグローバルに無効化されています。」と表示されたら



「■ SMTPサーバーの接続設定」(→P.35)でSMTPサーバーを設定してから、再度本手順を行ってください。

- 5 「OK」をクリックし、設定を反映します。

設定が完了したら、テストメールの送信(→P.39)を行い、メールが正しく送信されることを確認してください。

8.2 テストメールの送信

Eメール送信の設定が完了したら必ずテストメールを送信し、送信が正しくできることを確認してください。

- 1 iRMCにログインします (→P.6)。
- 2 「設定」タブをクリックし、画面左側の「ユーザー管理」→「iRMCローカルユーザーアカウント」の順にクリックします。

The screenshot shows the iRMC SS Web Server interface. The top navigation bar has tabs for システム (System), ログ (Log), ツール (Tools), and 設定 (Settings). The Settings tab is selected and highlighted in red. On the left sidebar, there are several categories: システム (System), ネットワーク制御 (Network Control), サービス (Services), and ユーザ管理 (User Management). The 'User Management' category is also highlighted in red. In the main content area, there is a heading 'iRMC ローカルユーザーアカウント' (iRMC Local User Account) with a red box around it. Below this, a table lists two users: 'admin' and 'testuser', both assigned the 'Administrator' role. At the bottom of the table, there are two collapsed sections: 'Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)' and '中央認証サービス(CAS)'. A large red box covers the entire right side of the page, from the table down to the footer.

- 3 Eメールを送信するユーザーアカウント名の左にある●をクリックします。
例：「testuser」アカウントのEメール送信テスト

This screenshot shows a detailed view of the 'iRMC ローカルユーザーアカウント' (iRMC Local User Account) configuration. It displays a table with columns for Name, Role, Description, and Actions. Two users are listed: 'admin' and 'testuser', both with the 'Administrator' role. The 'testuser' row is highlighted with a red box. The 'Actions' column for each user contains two buttons: '編集' (Edit) and '削除' (Delete). A large red box covers the entire right side of the page, from the table down to the footer.

4 「テストEメール送信」をクリックします。

The screenshot shows the 'User Management' section of the iRMC SS Web Server settings. It lists two users: 'admin' (Administrator role) and 'testuser' (Administrator role). Below the user list are sections for 'User Authentication' (including Refresh/Logout, LAN, SSH, and iRMC access), 'SNMP Settings' (with Read Only, Write, and M/S options), and 'Email Settings' (with Enabled, Port, and Standard options). At the bottom right of the main content area, there is a red-bordered button labeled 'テストメール送信' (Test Mail).

次のような題名のテストメールが送信されます。

テストメールが指定した送信先Eメールアドレスに届いているか、確認してください。

題名 : Test mail from iRMCXXXXX (*****@XXX.XXX.XXX.XXX)

※「*****」はテストメールを送信したユーザー情報名が表示されます。

※「XXX」に表示される文字は、装置により異なります。

8.3 テストメールとEメール通知の確認

テストメールやEメール通知がうまく届かない場合は、次の順番で問題箇所の特定を行ってください。

- iRMCのシステムイベントログからの原因特定 (→P.41)
- Windowsでの通信確認 (→P.43)
- Windowsでの通信確認／メール送信 (→P.45)

■ iRMCのシステムイベントログからの原因特定

iRMCのシステムイベントログには、Eメールが正常に送信できなかった場合のエラーログが記録されます。エラーログの内容から、どのような障害が起こっているのかを特定します。

1 iRMCのシステムイベントログを表示します。

システムイベントログの表示は、「7 システムイベントログ (SEL)」(→P.31) をご覧ください。

2 「イベントログ内容」の「重要度」から「情報」にチェックを付けます。

イベントログ内容						
	重要度	発生日時	コード	発生元	説明	警告グループ
①	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	2019-03-28 13:59:34	1A0034	Config backup	Chassis iDPROM: BMC FW restore successful	その他
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-29 13:59:34	160014	iRMC S5	Online firmware flash: iRMC S5 reboot EEPROM 2 Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-28 13:59:33	160016	iRMC S5	Firmware change detected Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-28 13:57:57	160013	iRMC S5	Online firmware flash EEPROM 2 Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-28 13:55:03	160013	iRMC S5	Online firmware flash EEPROM 1 Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:17:20	070001	PSU	'PSU: Power supply OK'	システム電力
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:17:19	040001	FAN PSU	'FAN PSU: Fan is working'	ファンセンサ
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:15:40	040001	FAN6 SYS	'FAN6 SYS: Fan is working'	ファンセンサ
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:13:59	040001	FAN6 SYS	'FAN6 SYS: Fan is working'	ファンセンサ
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:12:36	040001	FAN5 SYS	'FAN5 SYS: Fan is working'	ファンセンサ

3 表示されたリストに、次のログが記録されていないか確認します。

イベントログ内容						
	重要度	発生日時	コード	発生元	説明	警告グループ
①	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	2019-03-28 13:59:34	1A0034	Config backup	Chassis iDPROM: BMC FW restore successful	その他
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-29 13:59:34	160014	iRMC S5	Online firmware flash: iRMC S5 reboot EEPROM 2 Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-28 13:59:33	160016	iRMC S5	Firmware change detected Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-28 13:57:57	160013	iRMC S5	Online firmware flash EEPROM 2 Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/>	2019-03-28 13:55:03	160013	iRMC S5	Online firmware flash EEPROM 1 Version 2.42	リモート管理
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:17:20	070001	PSU	'PSU: Power supply OK'	システム電力
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:17:19	040001	FAN PSU	'FAN PSU: Fan is working'	ファンセンサ
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:15:40	040001	FAN6 SYS	'FAN6 SYS: Fan is working'	ファンセンサ
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:13:59	040001	FAN6 SYS	'FAN6 SYS: Fan is working'	ファンセンサ
①	<input type="checkbox"/> 情報	2019-03-27 15:12:36	040001	FAN5 SYS	'FAN5 SYS: Fan is working'	ファンセンサ

- PAGING: iRMC S5 '*****' E-mail - Bad 'RCPT'
- PAGING: iRMC S5 '*****' E-mail - No connect

※ '*****'はEメール設定を行ったユーザー アカウント名が表示されます。

4 エラーメッセージの内容を元に、原因を特定します。

- 「PAGING: iRMC S5 '*****' E-mail - No connect」と表示される

原因	対策
SMTPサーバーに到達できません。	SMTPサーバーのIPアドレスまたはDNS名が合っているか確認してください。(→P.35)
	ネットワークポート番号が合っているか確認してください。(→P.35)
	SMTPサーバーと通信できるネットワーク内にiRMCのIPアドレスが用意されているか確認してください。(※)
	Firewallなどで、通信がブロックされていないか確認してください。(※)

※ ケーブル不良、ネットワークハブの障害など、通信経路による不具合については、ネットワーク担当者にお問い合わせください。

- 「PAGING: iRMC S5 '*****' E-mail - Bad 'RCPT'」と表示される

原因	対策
SMTPサーバーにはつながりましたが、Eメールの宛先が存在しません (Eメールアドレスが間違っています)。	宛先Eメールアドレスを、正しいアドレスに直してください。

- エラーメッセージが表示されない

原因	対策
Eメール送信機能が無効になっています。	「Eメール警告送信を有効にする」にチェックを付けます。(→P.35)
	「Eメール警告を有効にする」にチェックを付けます。(→P.38)
	SMTPサーバーのIPアドレスが初期値(0.0.0.0)のままになっている場合、Eメール送信機能は動作しません。正しいIPアドレス、またはDNS名を入力します。(→P.35)
Eメールは正しく送信されていますが、管理者が受信できていません。	迷惑メールフィルターにより、ブロックされている可能性があります。お使いの環境のメールフィルター設定を確認してください。
	お使いの環境のメール受信設定が正しく設定されているか、確認してください。

■ Windowsでの通信確認

「■ iRMCのシステムイベントログからの原因特定」(→P.41)で原因がわからなかった場合、本コンピューターのLANコネクタ2のLANコントローラーとiRMCのIPアドレスを入れ替え、Windows上でpingコマンドやtracertコマンド、Eメールアプリケーションを使用して異常がないか確認を行います。

□ 通信確認環境への設定変更

☞ 重要

- ▶ 本手順では、LANコネクタ2を一時的に無効化し、LANコネクタ1のIPアドレスの設定を一時的に変更します。
必ず業務で本コンピューターを使用していないときに確認を行ってください。
- ▶ BIOSセットアップの起動、終了方法については、コンピューター本体の『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」をご覧ください。

- 1** BIOSセットアップを起動します。
- 2** 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 3** 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4** 次の3つの設定の値を記録します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレス設定」が「DHCPを使う」になっている場合、上記3項目の記録は不要です。
- 5** 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を次のように変更します。
 - ・IPアドレス : 169.254.1.1
 - ・サブネットマスク : 255.255.255.0
 - ・デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0

※ 上記のIPアドレスをすでに使用している場合は、ネットワーク環境に影響を与えない孤立IPアドレスをネットワーク管理者に確認して指定してください。

※「IPアドレス設定」が「DHCPを使う」になっている場合は、事前に「固定アドレスを使う」に変更してください。
- 6** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
- 7** コンピューターを再起動します。
- 8** コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」を開きます。
「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」
- 9** ウィンドウ左の「アダプター設定の変更」をクリックします。

- 10** LANコネクタ1のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。
- 11** 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」をダブルクリックします。
- 12** 次の3つの設定の値を記録します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレスを自動的に取得する」設定になっている場合、記録は不要です。
- 13** 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を、手順4で記録した内容に変更します。

※手順4が「DHCPを使う」、手順12が「IPアドレスを自動的に取得する」になっている場合は、設定不要です。
- 14** 「OK」をクリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。
- 15** LANコネクタ2のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、「無効にする」をクリックします。
- 16** 開いているウィンドウを閉じます。
- 17** 「コマンドプロンプト」を起動します。
- 18** 「■ Windowsでの通信確認／メール送信」(→P.45) の内容に従い、Windows上で検証を行います。

重要

▶ 確認が終了したら、必ず次の手順に従って設定を元に戻してください。

□通信環境を元に戻す

- 1** コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」を開きます。
「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」
- 2** ウィンドウ左の「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 3** LANコネクタ2のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、「有効にする」をクリックします。
- 4** LANコネクタ1のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。
- 5** 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」をダブルクリックします。

- 6** 次の3項目の内容を、「□ 通信確認環境への設定変更」の手順12で記録した内容に戻します
「IPアドレスを自動的に取得する」の設定だった場合は、設定を戻します。
・IPアドレス
・サブネットマスク
・デフォルトゲートウェイ
- 7** コンピューターを再起動し、BIOSセットアップを起動します。
- 8** 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 9** 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 10** 次の3つの設定の値を、「□ 通信確認環境への設定変更」の手順4で記録した内容に戻します。
・IPアドレス
・サブネットマスク
・デフォルトゲートウェイ
※「IPアドレス設定」が「固定アドレスを使う」になっている場合は、「DHCPを使う」に設定を戻します。
- 11** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

■ Windowsでの通信確認／メール送信

ここではWindows上でメールの送信を試みます。

Eメールアプリケーションを使用し、iRMCで設定したものと同じSMTPサーバー経由でメールを送信することができるか確認します。

※ 設定方法については、お使いのEメールアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

□ Windows上でメールの送信ができた場合

原因	対策
SMTPサーバーが認証方式にPOP before SMTPを使用している	本コンピューターのEメール送信機能は、POP before SMTPに対応しておりません。認証なしか、RFC2554（SMTP認証）に定義された認証方式を使用するSMTPサーバーを指定してください。
iRMCのEメール送信機能が正しく動作していません	装置不良の可能性があります。

□ Windows上でメールの送信ができなかった場合

原因	対策
本コンピューターのiRMC機能以外の要因です。	ネットワーク環境またはWindowsの設定に問題があります。

※ 通信経路による不具合については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ Eメールのフォーマット

装置に異常が発生した場合や、テストメールを送信すると、次のフォーマットに沿ったメールが送信されます。

- 例：題名

ID : MA0000001 EVT: 23001 TXT: 'FAN1 GFX' : Fan failed

項目	説明
ID	装置号機が記載されます。
EVT	システムイベントログの番号が記載されます。
TXT	障害内容が記載されます。

- 例：本文

```
Message: 23001 Tue 02 Jun 2019 03:24:58 PM UTC 'FAN1 GFX' : Fan failed
Severity: Critical
CSS Event: no
```

```
System Information
Server Type : CELSIUS C780
SerialNumber: MA0000001
BIOS Version: V5.0.0.13 R1.1.0 for D3688-A1x
Server O/S : - unknown -
Server URL : http://www.server.com
SysContact : - unknown -
SysLocation : - unknown -
Server IP :
```

```
iRMC S5 Information
FW Version : 2.42.0
FW BuildDate: May 11 2019 20:07:57
SDRR Version: 3.02 ID 0439 C780
URL(0) : http://192.168.11.4
```

項目	説明
Message	イベントが記載されます。
Severity	重要度が記載されます。Critical障害の場合は対策が必要です。
CSS Event	本コンピューターではサポートしていません。 本項目は無視してください。
Server Type	本コンピューターの品名が記載されます。
SerialNumber	装置号機が記載されます。
BIOS Version	本コンピューターのBIOSのバージョンが記載されます。
Server URL	「Eメール送信フォーマット」で指定したアドレスが記載されます。
Server Name	「空欄」または「-unknown-」と表示されます。
Server O/S	本コンピューターではこの情報は自動取得されません。 本項目は無視してください。
SysContact	
SysLocation	
ServerIP	

項目	説明
FW Version	iRMCファームウェアの版数が記載されます。
FW BuildData	
SDRR Version	
URL(0)	障害装置のWEBインターフェースのアドレスが記載されます。 WEBインターフェースにアクセス可能なネットワークにいる場合は、URLをクリックすることでログインできます。

8.4 主な送信Eメール内容一覧

イベント	イベントの内容
'FAN* GFX': Fan failed	※「*」には任意の数字が入ります コンピューターの冷却ファンが故障しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'FAN* SYS': Fan failed	コンピューターの冷却ファンが故障しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Power unit primary power lost	コンピューターが稼働中に、電源供給が絶たれました。ACケーブルが外れかかっていないか、停電や瞬断が発生していないか確認してください。
'XXX': Temperature high critical: *** C	※「XXX」には任意の文字列が入ります。 ※「***」には任意の数字が入ります。 コンピューターの温度センサーが、危険しきい値を超えました。コンピューターの設置環境が高温になっていないか確認してください。
'DIMM-XX' Memory Uncorrectable error (ECC)	※「XX」には任意の文字列が入ります。 メモリーに訂正不可能なエラーが発生しました。このエラーが継続して発生する場合メモリーが故障しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'DIMM-XX': Memory module failed (disabled)	※「XX」には任意の文字列が入ります。 メモリーに訂正不可能なエラーが発生しました。このエラーが継続して発生する場合メモリーが故障しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Fatal NMI	メモリーエラーなど、異常が発生したため装置が自動停止しました。このエラーが継続して発生する場合は「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
POST - No video device detected	映像を出力するデバイスが見つからないか、モニターがつながっていません。モニターがグラフィック端子に接続されているか確認してください。
POST - Invalid date/time	日付と時刻が異常です。正しい日付と時刻をBIOSセットアップメニューで指定してください。
POST - No memory installed	メモリーが搭載されていないか、故障しています。このエラーが継続して発生する場合は「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
POST - Front panel NMI / diagnostic interrupt	コンピューター本体前面の「NMIボタン」が押されたときに送信されます。NMIボタンは押さないでください。
Housing opened	コンピューター本体天面が開いた場合に送信されます。 コンピューター本体天面は開けないでください。

8.5 Eメール設定の初期値

Eメール設定メニューの初期値と各項目の説明です。

■ Eメール送信設定

項目	初期値	説明
Eメール警告送信を有効にする	チェックなし	「Eメール設定」の有効／無効を設定します。チェックを外すと、Eメール送信設定は無効になります。
SMTPリトライ	3	Eメール送信エラーとなった場合の、リトライ（再送）回数を設定します。
SMTPリトライ遅延	30	リトライを行う間隔（秒）を設定します。
SMTP応答待ち時間	45	SMTPサーバーからのレスポンス（応答）待ち時間（秒）を設定します。

※ Eメール送信で指定するメールサーバーの、メールソフトの種類またはLAN回線の速度などにより、メールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「Eメール送信設定」の「SMTP応答待ち時間」の値を大きくしてください。

■ プライマリSMTPサーバ（設定）

項目	初期値	説明
サーバアドレス	0.0.0.0	SMTPサーバーのIPアドレスを指定します。DNSが有効の場合はサーバー名でも指定できます。
ネットワークポート	25	SMTPで使用するポート番号を指定します。初期値は25です。
認証タイプ	なし	SMTPサーバーのユーザー認証タイプを設定します。 ・なし SMTPサーバーはユーザ認証を行いません。 ・SMTP認証（RFC2554） SMTPサーバーはRFC2554（SMTP認証）に定義された認証処理を行います。 ※ POP before SMTPには対応しておりません。
認証ユーザ名	(空欄)	
認証パスワード	(空欄)	
EHLO/HELOでFQDNを送信する	チェックあり	このチェックは外さないでください。
暗号化（SSL）	チェックなし	SSLの有効／無効を設定します。
SSL証明書を検証	チェックなし	

■ セカンダリSMTPサーバ (設定)

項目	初期値	説明
サーバアドレス	0.0.0.0	SMTPサーバーのIPアドレスを指定します。DNSが有効の場合はサーバー名でも指定できます。
ネットワークポート	25	SMTPで使用するポート番号を指定します。 初期値は25です。
認証タイプ	なし	SMTPサーバーのユーザー認証タイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・なし SMTPサーバーはユーザ認証を行いません。 ・SMTP認証 (RFC2554) SMTPサーバーはRFC2554 (SMTP認証) に定義された認証処理を行います。 ※ POP before SMTPには対応しておりません。
認証ユーザ名	(空欄)	
認証パスワード	(空欄)	
EHLO/HELOで FQDNを送信する	チェックあり	このチェックは外さないでください。
暗号化 (SSL)	チェックなし	SSLの有効／無効を設定します。
SSL証明書を検証	チェックなし	

■ Eメールフォーマット

項目	初期値	説明
送信元	MailForm@domain.com	Eメールの送信元アドレスを記入します。 ※ 本機にはEメールを受信する機能はありません。そのため送信元アドレスには、障害Eメールが届いたときに返信をしたい返信先メールアドレスを入力してください。
題名	FixedMailSubject	ITSフォーマット（未サポート）時のみ反映されるため、使用できません。
メッセージ	FixedMailMessage	変更しないでください。
管理者名	ITS_UserInfo0	
管理者電話番号	ITS_UserInfo1	
国コード	(空欄)	
カスタマーID	(空欄)	
サーバURL	http://www.server.com	ここに記載したURLは、Eメール送信時に本文に記載されます。 ※ EメールはUS-ASCII形式で送信されます。 全角文字や半角カナ文字は使用しないでください。
添付	チェックなし	「重大なOS停止」イベントEメールにスクリーンショットを添付

■ Eメール設定

項目	初期値	説明
Eメール警告を有効にする	チェックなし	チェックを付けることで、指定した宛先アドレスへのEメール送信機能が有効になります。
暗号化を有効にする	チェックなし	
Eメールフォーマット	標準	Eメールのフォーマットを指定します。 本項目は「標準」から変更しないでください。
優先メールサーバ	自動	プライマリSMTPサーバー、セカンダリSMTPサーバーのどちらを優先的に使用するか指定します。 通常は「自動」のまま変更する必要ありません。
Eメールアドレス	(空欄)	Eメールを送信する宛先Eメールアドレスを入力します。
システムレポートの添付を有効にする	チェックなし	
警告レベル	「警告レベル」の表をご覧ください	各項目でイベントが発生した場合に、メールを送信するしきい値です。 ファンセンサーと温度センサーが「危険」になっていることを確認し、違う場合は修正してください。 ※ 本項目はむやみに変更しないでください。

□ 警告レベル

項目	初期値	説明
ファンセンサー	危険	冷却FANに関する送信しきい値です。 「危険」では、FANの故障が疑われる場合に送信します。
異常ハードウェアエラー	全て	コンピューターが異常停止するような事象が発生した場合に送信されます。NMIボタンを押したときなどがこれにあたります。
POST エラー	全て	コンピューター起動時に検知した事象に関する送信しきい値です。 メモリー未搭載、日付時刻異常がこれにあたります。
システム状態	なし	iRMCとBIOSの時刻同期を実施したときなどに記録されます。
ネットワークインターフェース	警告	本コンピューターではサポートしていません。
システム電力	警告	電源に関する送信しきい値です。 「警告」では、電源供給が突然絶たれた（AC抜け、停電など）ときに送信します。
その他	なし	本コンピューターではサポートしていません。
温度センサー	危険	温度センサーに関する送信しきい値です。 「危険」では、コンピューターの継続動作に支障が生じる温度の場合に送信します。
システムハング	危険	本コンピューターではサポートしていません。
セキュリティ	警告	本コンピューターではサポートしていません。

項目	初期値	説明
ディスクドライバとコントローラ	危険	本コンピューターではサポートしていません。
リモート管理	危険	iRMC機能に関する送信しきい値です。 「危険」ではiRMCの故障が疑われる場合に送信します。
メモリ	危険	メモリーに関する送信しきい値です。 「危険」では、メモリー故障が疑われる場合に送信します。

iRMC
(リモートマネージメントコントローラ)

B6FK-1871-01 Z0-00

発行日 2019年7月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。